

科名：生産電子情報システム技術科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	応用課程	創造的開発技法	必須	5期	4	8
教科の区分	専攻学科					
教科の科目	企画開発					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
企業における研究・開発業務						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
創造性の助長を促すことを目的に、ケーススタディや課題を中心に企画・開発に関する各種手法を学びます。	①	企業における研究・開発体制について知っている。				
	②	問題解決の基本手順を知っている。				
	③	研究・開発テーマに関する調査、データの整理・分析ができる。				
	④	研究・開発テーマに関する問題解決のためのモデル化ができる。				
	⑤	問題解決のための発散技法と収束技法の組み合わせを知っている。				
	⑥	ブレイン・ストーミング法・マトリクス法・NM法等の発散技法を用い問題解決のアイデアの出し方を知っている。				
	⑦	KJ法・特性要因法等の収束技法を用い問題解決のアイデアのまとめ方について知っている。				
	⑧	創造的開発技法のいくつかを実施することができる。				
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	日頃から新聞・雑誌、ニュースなどで、関連するエレクトロニクスの新商品や工法、技術動向に関心を持って下さい。また、興味をひかれた記事などはスクラップブックなどで整理するとよい。
授業科目についての助言	ここでは企業が商品の研究・開発の仕事をする上で、技術者として必要とされる“発想方法”や分析手法、問題点解決手法などをグループ学習で実践しながら、その“技法”を身につけていくことをネライとしている。 研究開発業務を経験することは、その企業の将来を担うことでもあり、他の部署に配置転換したあともその経験は職業人生の中で重要となります。応用課題や開発課題で必要とされるプロジェクトマネジメントをケース
教科書および参考書(例)	教科書：自作テキスト
授業科目の発展性	

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		30		20		40	10
授業内容の理解度		20		20		10		
技能・技術の習得度		10						
コミュニケーション能力						10		
プレゼンテーション能力						10		
論理的な思考力、推論能力								
取り組む姿勢・意欲							10	
主体性・協調性							10	
回数	訓練の内容			運営方法	訓練課題 予習・復習			
1週	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明 2. 創造とは何か？			講義	創造的開発技法とはどのような学習なのかを各自が考えてください。			
1週	(1)創造的思考力			講義	創造的思考力を高めるにはどうすればよいかについて学習します。			
2週	3. 企業の組織と開発体制 (1)企業組織の開発部門について学習、演習			講義、演習	企業にはどんな組織があり開発部門とどのように関連しているかをグループ毎に調査・討議し内容をまとめて、レポートにして提出してください。			
2週	4. ブレインストーミング (1)ブレインストーミング手法の学習と演習			講義、演習	ブレインストーミング手法について調査し、演習課題に対してグループで実践してください。			
3週	(2)演習(継続)、レポート作成			演習 レポート	演習でまとめた内容をグループ毎に報告し、意見交換を行う。報告内容はレポートにして提出してください。			
3週	5. KJ法による創造的開発技法 (1)KJ法の学習と演習			講義、演習	KJ法について調査し、演習課題に対してグループで実践してください。			
4週	(2)演習(継続)、レポート作成			演習 報告会	演習でまとめた内容をグループ毎に報告し、意見交換を行う。報告内容はレポートにして提出してください。			
4週	6. NM法による創造的開発技法 (1)NM法の学習と演習			講義、演習	NM法について調査し、演習課題に対してグループで実践してください。			
5週	(2)演習(継続)、レポート作成			演習 レポート	演習でまとめた内容をグループ毎に報告し、意見交換を行う。報告内容はレポートにして提出してください。			
5週	7. 商品企画・戦略 (1)ヒット商品の盛衰を調査・分析の演習			講義、演習	過去に大ヒットした商品を1つ取り上げ、勝利した企業と敗退した企業、その原因をグループで分析・考察し報告資料にまとめてください。			
6週	(2)演習(継続)、レポート作成			演習 レポート	調査した内容をグループ毎に報告し、意見交換を行う。報告内容はレポートにして提出してください。			
6週	(3)ヒット商品の商品戦略検討に関する演習、レポート作成			講義、演習	5フォース分析手法を使って商品戦略の演習を行います。			
7週	8. プロジェクトマネジメント (1)プロジェクトマネジメントの概要 (2)WBS			講義、演習	プロジェクトマネジメントについて学習・演習を行います。			
7週	(3)コスト管理 (4)スケジュール管理			講義、演習	プロジェクトの工数管理やスケジュール作成について学習・演習を行います。			
8週	9. ケーススタディー (1)新商品企画と開発計画の演習			演習	新しい商品のアイデアをグループで討議し、新商品企画書を作成してください。			
8週	(2)新商品企画と開発計画の演習(継続)			演習	作成した新商品企画・開発計画をグループ毎に発表・質疑応答を行います。			
9週	10. 定期試験 筆記試験			演習	受講した講義内容全般について、そのポイントとなる箇所をしっかりと復習し、試験に臨んでください。			
9週	11. 試験結果の講評と授業評価			講義、演習	試験結果の講評と学習成果の今後の活かし方について。			